

水でたどる歴史とあゆみ

水源は入鹿池? (バルトン氏)



W.K. バルトン

井戸水の水質悪化からコレラなどの伝染病や火災に対する水道の有用性の認識が広まるなか、明治24年(1891年)

10月28日には濃尾大地震が起こり、その復旧とともに、名古屋市にも水道を布設すべきであるとの議論が起こってきました。

明治26年、名古屋市は内務省衛生局顧問W.K.バルトンに対し、水道布設のための調査を依頼しました。

バルトンは明治27年6月に入鹿池を水源とする「名古屋市給水工事に関する意見書」を提出しましたが、当時の市財政ではその工費175万円を支出する財源はなく、

計画の実行は延期されることとなりました。
(次回へつづく)



入鹿池

バルトン計画案 (明治27年)



名古屋市の歴代マンホールのふた

名古屋市型のふた

昭和8年頃から採用され、穴が4カ所となり、破損、悪臭等が軽減されました。その後、自動車の増加や大型化などにより、道路事情が大きく変化すると材質が強度不足となったため、昭和52年10月からは歩道用のふたとして設置しました。



水の歴史資料館
HISTORICAL MUSEUM OF WATERWORKS AND SEWERAGE

開館時間：午前9時30分～午後4時30分
休館日：月曜日 (休日の場合は直後の平日)

夏休み水道・下水道実験教室開催(詳しくは資料館HPまで)